



こども歴史なぜなに? 相談室



中世のお金を今になおしたら、いくら?

草戸千軒がさかえた中世は、品物の売買にお金が広く使われるようになった時代です。このお金は、日本国内ではなく中国でつくられたもので、国境を越えて通用していました。円い硬貨で、中央に四角いあながあります。つくられた年によって「皇宋通宝」「永楽通宝」などのさまざまな種類のものがありますが、価値に差はなく、1枚が「1文」として扱われていました。別の単位としては、10文が「1疋」、1000文が「1貫」です。

【中世のお金の単位】	
1 疋	= 10 文
1 貫	= 1000 文
【量の単位】	
1 石	= 10 斗
1 斗	= 10 升
1 升	= 10 合

このお金について、1文は今の金額にしたらいくらになるのでしょうか。この計算には、**米の値段を参考**にする方法があります。当時の記録で、米1石(量の単位)の値段が1貫ほどであったことから導き出すものです。

量の単位については、1石=10斗、1斗=10升、1升=10合で、例えば、「お酒の1升びん」、「ご飯を3合たく」というように、現在でも、身近な場面でよく使う言葉です。具体的に、水1升は1.8リットル、米1升は1.5キログラムほどになります。お店で、米10キログラムが4,000円だとすれば、150キログラム(1石)は60,000円になり、これが1000文(1貫)ですから、1文は60円という計算になります。

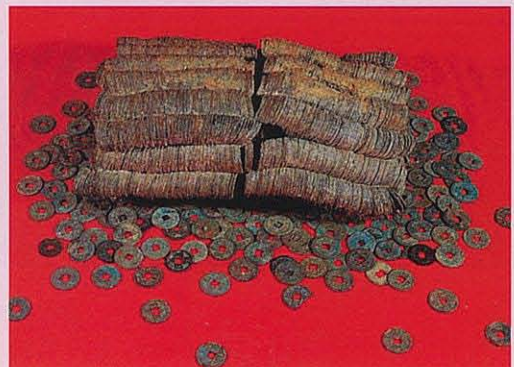
しかし、米の値段は、年や季節によって変わっていますし、「石・斗・升・合」の量も現在ほど数字がはっきりしていません。こうしたことを考えて、**1文は50円から100円**と計算しています。お金1枚は、50円玉か100円玉にあたるのです。

草戸千軒では、木札に墨書きされた木簡が多く発見されています。その中には、商いの際に、もの量や金額、取引相手、日付な

【草戸千軒の物価】	今のお金になおしたら…
・大麦…1升 = 1.5キログラムが約7文	→ 350～700円
・酒…1升 = 1.8リットルが約42文	→ 2,100～4,200円
・壺…1個 = 307文	→ 15,350～30,700円

どをメモとして記したものもあります。値段がわかるものには、大麦3斗が200文(1升到すれば約7文)、酒1斗2升が500文(1升到すれば約42文)、やきものの壺が307文、などがあります。1文を50円か100円として計算して、はたしてどんな印象を受けるでしょうか。

お金はとても便利なもので、暮らしに必要なものを得ることができます。ただそのためには、世の中に多くのお金が出まわり、売買のための品物も豊富になってくる必要があります。現在の私たちは、こうしたお金を使う暮らしをしています。その出発点は草戸千軒の時代だったのです。



草戸千軒で発見されたお金

(主任学芸員 下津間 康夫)